



WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: [comm.tko@nsk.org](mailto:comm.tko@nsk.org)  
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1152号  
2010年2月7日発行  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18  
編集人 英 久子

## ◇2月の代禱・信施奉献先

▽「信教の自由」を抑圧されている人々のため(2・11に近い主日)▽ハンセン病問題啓発の日(大斎節前主日の1週間)▽東京教区神学生のため(大斎節第1主日)▽聖公会生野センターため(3・1に近い主日)▽ぶどうのいえのため▽平和を実現するキリスト者ネットの働きのため▽聖公会平和ネットワークのため

◇委員長人事(1月1日付、任期11年12月31日)「常設委員会」聖職養成Ⅱ吉松英美「信仰と生活委員会」司祭宮崎光「正義と平和協議会」司祭前田良彦

◇中部教区主教按手式・就任式  
11日(木・休)、同教区司祭渋澤一

## 今週・来週の予定

2月7日～20日

- 7(日) 顕現後第5主日
- 9(火) 銀座朝拝会  
人権委員会(聖バルナバ)
- 10(水) 多摩G牧師協議会  
教区幼保懇談会
- 11(木) 日本聖公会組織成立記念日
- 12(金) 広報委員会
- 13(土) 人権:日の丸・君が代「祈りの会」(聖バルナバ)
- 14(日) 大斎節前主日
- 15(月) 常置委員会  
ハラスメント防止委員会
- 16(火) 月島・準備室  
聖職養成委員会
- 17(水) 大斎始日  
下町G大斎始日礼拝  
下町G牧師協議会
- 18(木) 城南G牧師協議会
- 19(金) 礼拝音楽委員会
- 20(土) 「主教職について学ぶ」  
第110(臨時)教区会

郎師の主教按手式ならびに就任式が行われ、東京から常置委員長・大畑喜道司祭が参列する。

## ◇「主教職について学ぶ」

教区主教選挙が行われる年にあたり、時報1月24日号クローズアップで既報の通り、2月20日(土・臨時教区会開催日)、10時半から聖アンデレ主教座聖堂

で、前東北教区主教佐藤忠男師のお話を伺い、「主教職」について学びを深める。

▽2月ランチタイム・オルガンコンサート \*聖パウロⅡ12日(金)、野田美香 \*神田キリストⅡ17日(水)、和田純子。いずれも12時20分から30分程度、入場無料。\*聖テモテは休演。

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

「聖公会は異端です。あなたは改宗してカトリックに戻りなさい」

50年程前、今思えば第二バチカン公会議が開かれたころ、私は父の転勤先の北九州小倉に居て、小中高一貫

のカトリックの学校に通う中学生でした。学校では週1回「公教要理」の授業がありました。中3のある授業の中でロザリオについて「なぜ主の祈りより「めでたし」をこんなに多く唱えるのですか」と質問した私へのメール(マザー)のお答えが冒頭の言葉でした。15歳の私には、聖公会とカトリックの違いも何が異端なのかも知りませんでした。祖父母の代から聖公会の家庭で平和に、のほほんとしていた私にとって、このことは

《 み 手 の な か で 》

## メールと公教要理

子 理 眞 名 老 海

衝撃でありその後の進路を決定づけました。聖公会の学校に行きたいという私の願いを神様は聞き入れて下さり、私はひとり帰京して立教女学院に入り、大学ではキリスト教学科に進む幸いを得ました。どこか気まずい別れだったにも拘らず、メールが上京の折には、大学での私の学びについてにこにこ聴いて下さいました。そのメールも今はなく、時の流れを感じます。

今、主日の聖餐式の中で全公会の為に祈り、カトリックとの共同訳の主の祈りを捧げる時、ふとあの「公教要理」の授業が甦えます。この60余年神様は昔も今も私と共にいて下さり、深い憐れみをもってこの拙い土の器の私をみ守り導いて下さることに唯々感謝です。

(八王子復活教会信徒)

1月30日聖アンデレ主教座聖堂で司祭按手式が廣田勝一管理主教司式、竹内謙太郎司祭説教により執行され、教区内外の参列者の臨証と、教区合同聖歌隊奉唱のもと二人の司祭が誕生した。

### ◇司祭職に叙任されて

司祭 卓 志雄(タクジウン)

人々は司祭を評価する時、積極的だ、人が良い、バランスがとれている、説教が感動的、勉強家だ、などと言う。しかし「あの先生は常に祈る司祭だ」という話はあまり聞いたことがない。司祭における「祈り」というのは、神様は私にとって絶対必要な存在であり、我が救い、我が命、我が愛、私の全てであることを知性で理解し、口で宣べ伝え、心で信じることの始まりである。また司祭の真

の働きを可能にする原動力である。司祭における權威は人間的な部分から成るものではなく、神様との対話である「祈り」から自然に成るものではないか。主に従い、全ての人の全てになり、自分を徹底的に捧げる生は、弱い人間の限界を超える要求であり人間の力ではできない。そのため「祈り」によらなければ神様の働きに参与することも、真の司祭の働きもできないのではないか。「祈り」によらない牧会はただ牧会の真似にすぎないのではないか。これからは「祈る司祭」として弱い人間でありながらもキリストにあやかりたい。絶えず祈りながらパウロの言葉を常に心に留めたい。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能で

す(フィリピ4・13)。

…先日行われた聖職按手式にお越しいただき、またお祈りをもってお支えくださいましたこと、本当にありがとうございます。

(練馬聖ガブリエル教会副牧師)

### 正義と平和協議会

運営委員会報告 (1月22日)

\*委員は5名で、さらに2名選出予定。

\*ブレ宣教協議会(8月)の宣教主事報告と情報交換。

\*管区正義と平和委員会が韓国訪問を検討中など議長報告。

\*聖公会「正義と平和」声明決議集を順次発行する。

\*協議会団体委員の各活動に対する支援、給食活動への注目。

\*「正義と平和協議会便り」発行。

### 「クローズアップ」 38

#### 正義と平和協議会シンポジウム

12月5日(土)13時より正義と平和協議会主催のシンポジウム「命をつなぐ働きをめざして」私たちはなぜ野宿者支援活動に入ったのか」が浅草聖ヨハネ教会で開催された。副題にあるとおり笹島、釜ヶ崎、東京と各地で野宿者・生活困窮者の支援をしている日本聖公会の関係者3名が発題者となった。

発題者から「野宿者・ホームレス」ではなく「失業者」であるとの指摘がなされた。必要となるのは自立していくための援助であり給食活動や夜回りをすることは手段であって目的ではないことが強調されていた。

行政によって、居所を封鎖された現場や酔った会社員に寝込みを襲われて命を落とした状況など野宿せざるを得ない人々の生活の實際が写真とともに紹介され、思いが分かち合われた。

浅草聖ヨハネ教会の日曜給食については「教会の外に出ていない活動。普通の教会が教会の働きとしてやっていること」と報告された。

また、笹島のある中部教区では野宿者支援の中心を担うNPO事務局が教区事務局に置かれ、市内の教会が他教派や市民団体と共に協働している姿も紹介された。

発言の中で興味深かったのは「現在の教会はその働きが単純になっているのではないか」と

いう問いかけであった。宣教の当初、病院・学校を始め社会的な働きの中核を教会が担っていたのに対し、現在は「内輪だけの平和を求めているように見える」との意見があった。

一方で、このような「社会的な働き」を教会がするべきではないとの声に対して「命に関する問題に教会は関心を持たないのだろうか」との問いを逆に受けた。

これらの問いに対して、どの様に応答していくのかは今後のそれぞれの教会が課題にしていることなのだと思う。

それぞれに熱い思いが語られ予定の時間を越えて終了した。

正義と平和協議会 前議長

司祭 須賀義和